

## 特集 未踏ユースから育ったタレントたち

1

## 人材育成としての未踏ユースの役割

岡野原 大輔 (株) プリファードインフラストラクチャー

正会員. 1982年生. 2006年(株)プリファードインフラストラクチャーを創業. 2010年東京大学情報理工学研究所コンピュータ科学専攻博士課程修了. 統計的自然言語処理, データ構造, 機械学習に関する研究およびその実用化に従事. 情報理工学博士. daisuke.okanohara@gmail.com

## 人材育成としての未踏ユース

私は未踏ユースによって変わるきっかけをいただき、今日まで至っている。

データ圧縮をテーマにして未踏ユースに応募した当時の私は、専門的知識や経験は不十分であり、成果も想定していたところに達することはできなかった。その時点では優れた才能の発掘としては失敗だったのかもしれない。

しかし、私はこの時、本気で問題に取り組む面白さを知ってしまった。未踏ユースと出会う前までは、私は夢中になることはあっても、本気になることはなかった。それが未踏ユース後は、技術や知識をどうにかして身につけ、使いこなしてやりたいという気持ちが強くなった。未踏ユースの人件費もすべて技術や知識を身につけるのに使われた。

また、PMから、私が専門としていたデータ圧縮だけではなく他の分野もやってみたらどうだという話をいただいたことが、その後、私が自然言語処理、機械学習、データ構造、バイオといったさまざまな分野に飛び込んでいくきっかけとなった。大学の研究室に配属される前にこれらの多くの分野を学び経験できたことはその後の人生で非常に大きい。

多くの分野に触れるのは若ければ若い方がいい。しかし、単に各分野を体験するだけでは本気になることはできず、楽しさを知ることはできない。ここの匙加減は非常に難しい。未踏はその気になれば多くの分野に本気で取り組む機会を与えてくれる点で素晴らしい。

私はその後、未踏本体にも自然言語処理、全文索引のテーマで採択された。未踏では、自分で予算・スケジュールを組みプロジェクトを進めていく。今までお金を持ったことがない若者が、数百万円の予算を使い、1年がかりでプロジェクトを進め、しかも大抵失敗する。この経験は教科書を読んだりいろいろ学ぶよりもはるかに有益である。この経験はその後の起業に大いに役立った。

## (株) プリファードインフラストラクチャー

未踏などを通して、私にとって起業することは、まったく無謀なことではなく、それが自分の思いを実現させる最も現実的な道であると考えようになった。

2006年3月に私と会社代表の西川を含む友人たちで(株)プリファードインフラストラクチャー(PFI)<sup>☆1</sup>を起業した。コンピュータが大好きなメンバが集まり、会社の目標は優れた技術を世の中に最短路で提供することと決めた。

会社での最初の製品は検索エンジンと決めた。これは、私が未踏で圧縮接尾辞配列と呼ばれる新しい索引方式に関するソフトウェアをすでに作っていたことも大きかったが、それよりも、検索エンジンならばさまざまな分野に関するノウハウをみんなで学ぶことができるだろうということだった。

現在PFIは検索エンジンSedueを中心とした製品群の開発・販売を行うとともに、多くの会社や研究組織とともに、自然言語処理や機械学習などさまざまな分野の共同研究開発を行っている。最近では特に、大規模リアルタイムデータ解析という課題に注力しており研究開発を行っている。今の会社メンバも、起業のときと同様に、コンピュータの力で世の中を変えたいと思っている人たちがばかりである。

私も会社もまだまだ道半ばである。これから目標の実現に向けて日々邁進するとともに、自分たちが受けられたように、若い人たちに機会を与えることを増やしていきたいと考えている。

(2011年9月14日受付)

☆1 <http://www.preferred.jp>